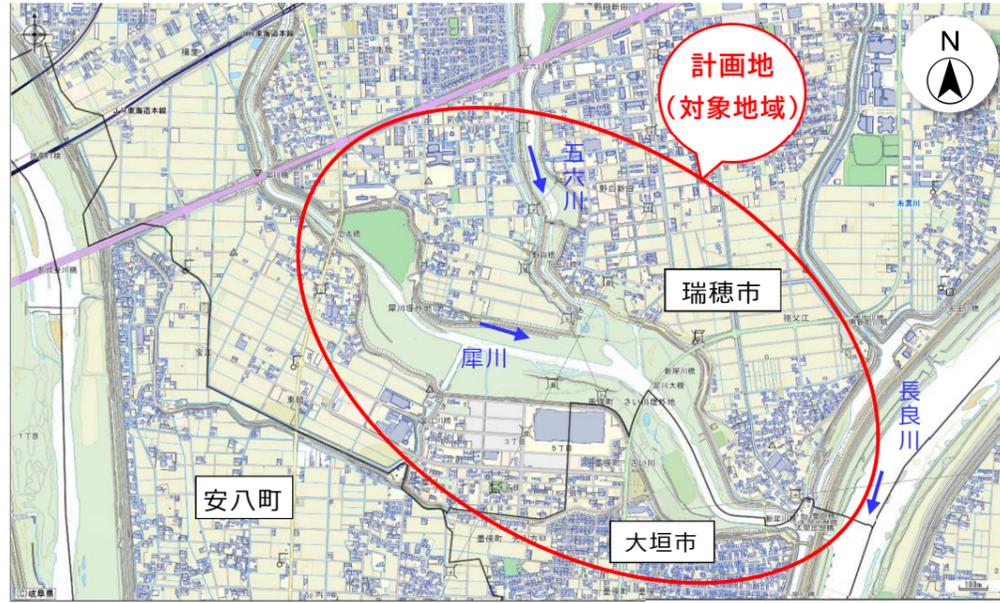


令和4年度 (仮称)犀川・五六川周辺かわまちづくり計画 年度報告



1 計画地（対象地域）の位置図



2 (仮称)犀川・五六川周辺かわまちづくり計画の事業スケジュール

事業の目的

犀川・五六川周辺地域を地方創生の拠点の1つと位置付け、豊かな自然の持つ多様な機能を活かした、“水辺”と“まち”が融合した良質な空間を形成し、にぎわいや交流を創出する。

〔令和3年度〕犀川遊水地グリーンインフラ基本構想の策定

〔(仮称)犀川・五六川周辺かわまちづくり計画の策定〕

◆グリーンインフラ基本構想を踏まえ、かわまちづくり計画の検討

〔令和4年度〕

- ・利用者アンケート調査及び民間団体との連携検討

〔令和5年度〕

- ・期間を限定した社会実験の開催
- ・かわまちづくり検討委員会の設立

〔令和6年度〕

- ・通年を通じた開かれた社会実験の開催による事業化の検証
- ・社会実験を踏まえたかわまちづくり計画の策定

〔令和7年度〕(仮称)犀川・五六川周辺かわまちづくり計画の申請

- ・かわまちづくり計画の申請
- ・都市・地域再生等利用区域の指定等の協議

本年度

3 利用者アンケート調査

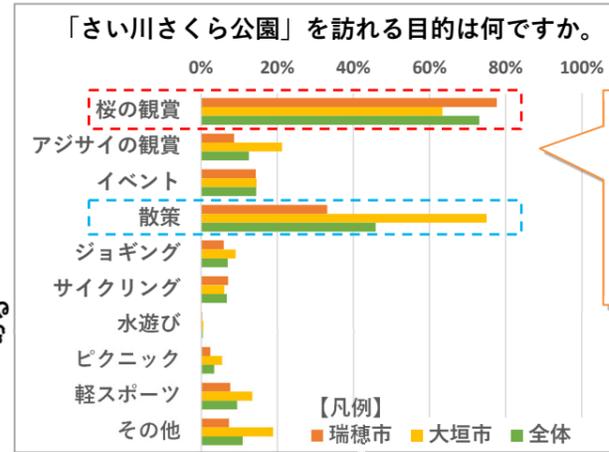
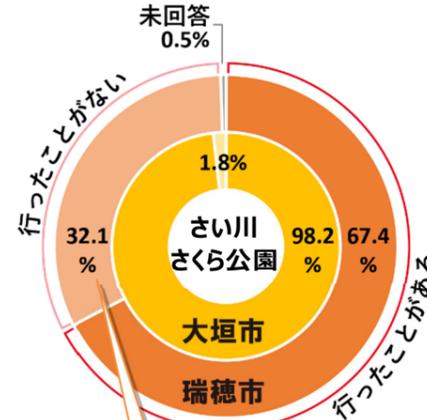
(仮称)犀川・五六川周辺かわまちづくり計画に反映させるため、瑞穂市民及び大垣市民（計画地周辺の墨俣地区）並びに瑞穂市内の小中学生に対して、計画地に求める機能や市民の参加の意向を把握する利用者アンケート調査を行った。

3.1 住民アンケート調査

3.1.1 アンケート調査概要

| | 瑞穂市 | 大垣市（計画地周辺の墨俣地区） |
|-------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 調査対象 | 市の住民基本台帳から無作為に抽出した15歳以上の1,300人 | 「さい川さくら公園」周辺にお住まいの墨俣地区の方（443戸） |
| 回答数 | 546票（回収率42.0%） | 167票（回収率37.7%） |
| 全体 713票（回収率40.9%） | | |

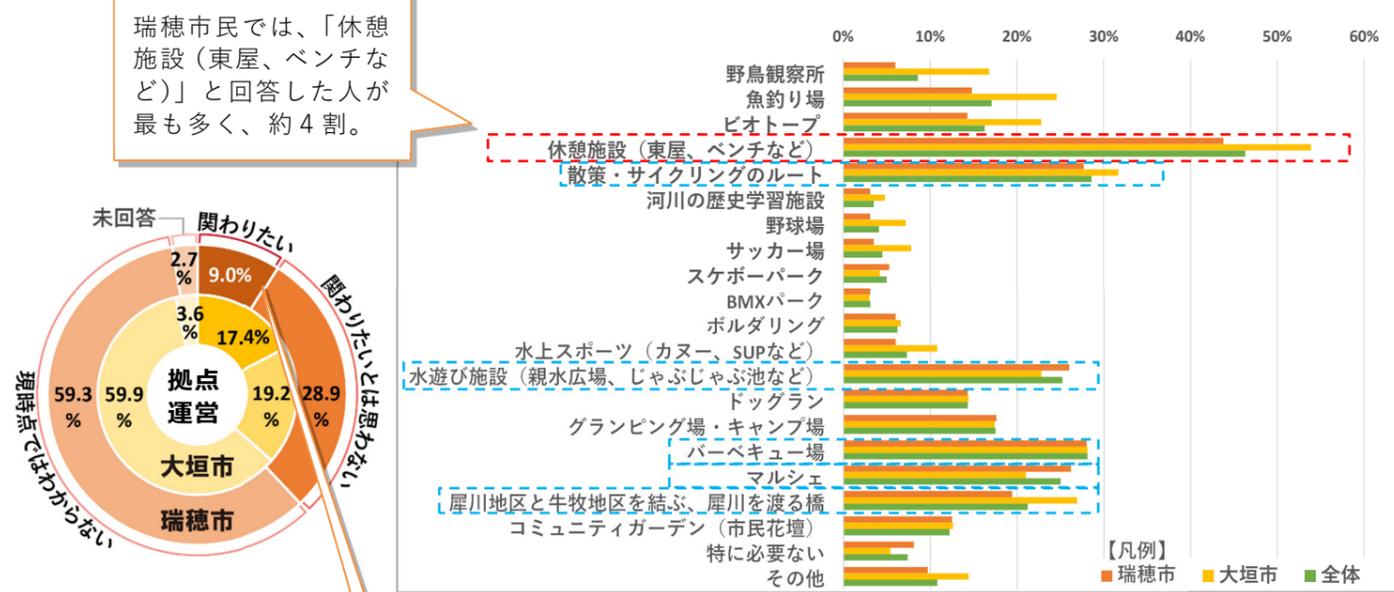
3.1.2 アンケート調査結果



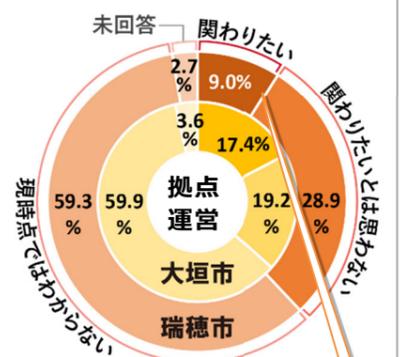
瑞穂市民では、「桜の観賞」と回答した人が最も多く、約8割。次いで、「散策」と回答した人が多く、約3割。

瑞穂市民では行ったことがない人が、約3割。

「さい川さくら公園」やその周辺エリアに何があったらいいと思いますか。



瑞穂市民では、「休憩施設（東屋、ベンチなど）」と回答した人が最も多く、約4割。



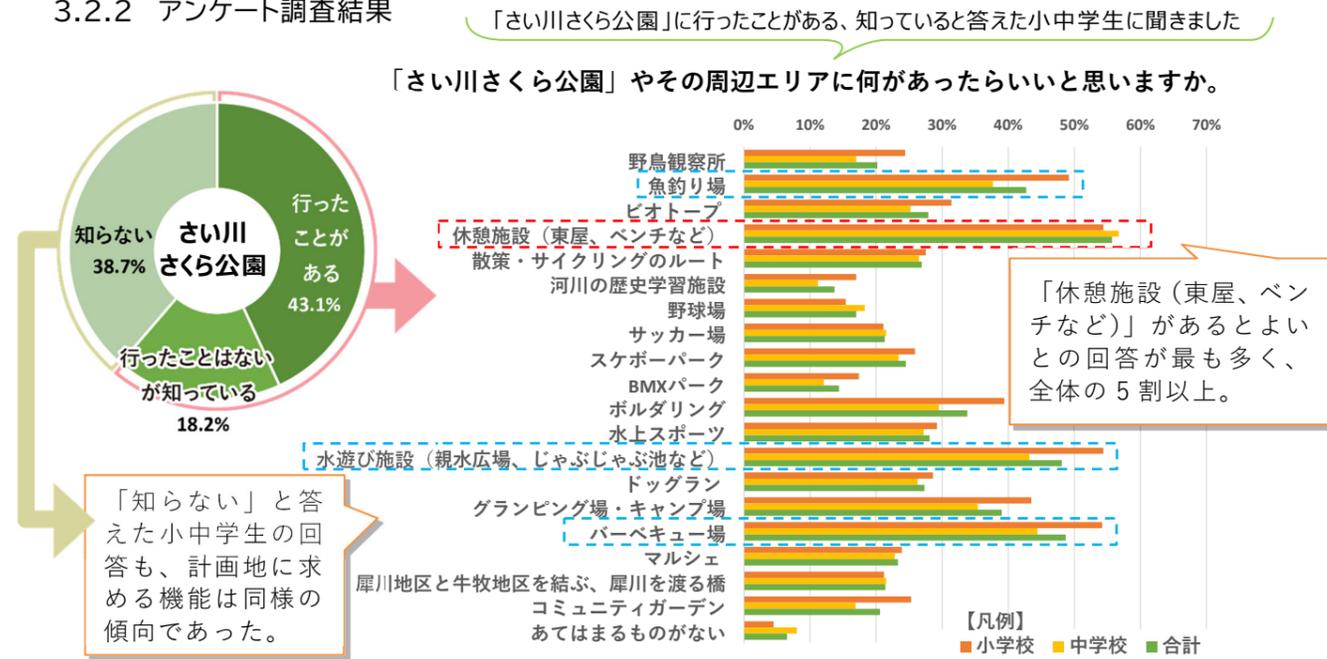
瑞穂市民では拠点運営に「関わりたい」と回答した人が、約1割。

3.2 小中学生を対象としたアンケート調査

3.2.1 アンケート調査概要

| 小中学生を対象としたアンケート調査 | |
|-------------------|---|
| 調査対象 | 市内の中学校の1～3年生（穂積、穂積北、巢南の3校）、市内の小学校の5、6年生（穂積、本田、牛牧、生津、南、中、西の7校） |

3.2.2 アンケート調査結果



4 民間団体との連携に関する調査

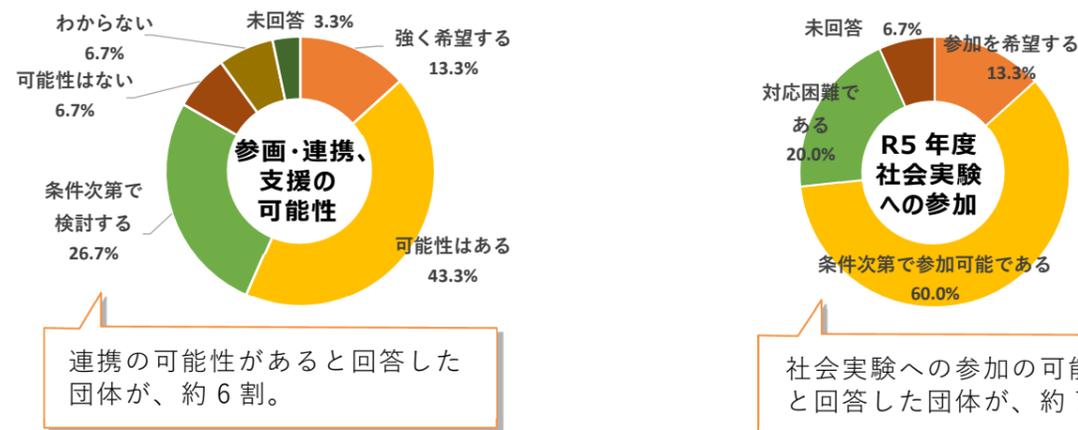
計画地における民間事業者・民間団体（団体）との連携について検討するため、アンケートによる市場可能性調査、及びアンケート調査結果を踏まえた個別ヒアリング調査を実施した。

4.1 市場可能性調査

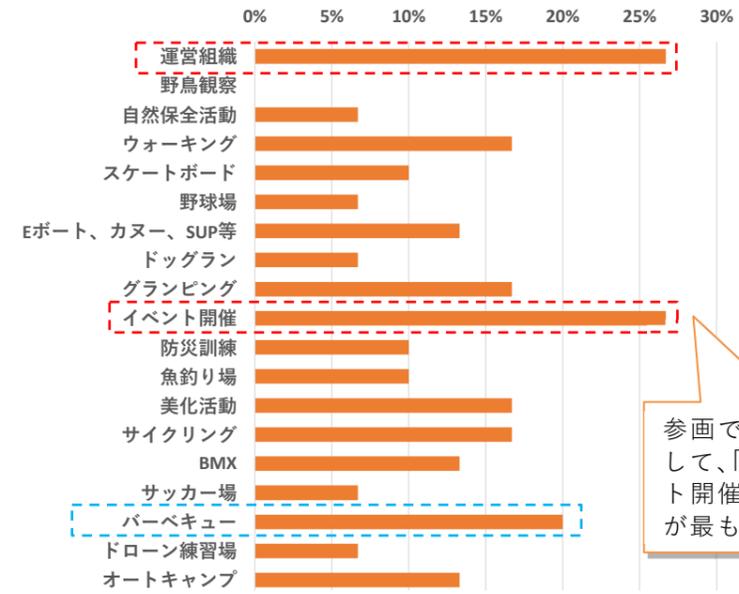
4.1.1 アンケート調査概要

| 市場可能性調査 | |
|---------|---|
| 調査対象 | 「犀川遊水地グリーンインフラ基本構想」で示す整備内容に関係し、協会等に加盟する64団体 |
| 回答数 | 26票（回収率40.6%）、公募での回答4票 |

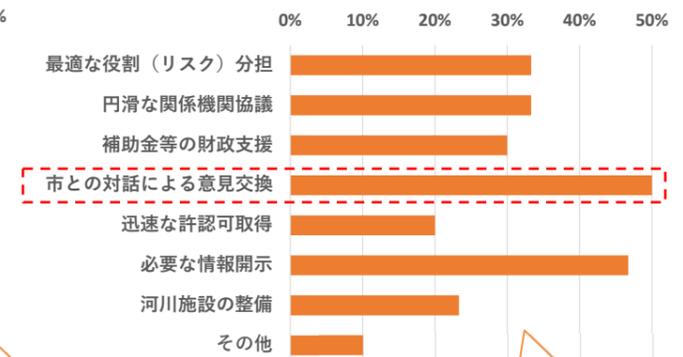
4.1.2 アンケート調査結果



当該計画地での事業に参画できる可能性のある項目



参画・連携できる場合の要望事項や必要事項



参画できる事業の項目として、「運営組織」「イベント開催」と回答した団体が最も多く、約3割。

参画・連携の要望事項として、「市との対話による意見交換」と回答した団体が最も多く、約5割。

4.2 個別ヒアリング調査

アンケート調査結果を踏まえ、当該事業に強い関心を示した団体等の10団体に対して、連携についての方向性、留意事項を探るため個別ヒアリングを実施した。

〔ヒアリング先の内訳〕

イベント系：3団体 アクティビティ系：3団体 自然環境系、その他：4団体

〔主な意見〕

- 指定管理料など一定の収入がなければ、持続的に事業を継続するのは難しいため、事業の採算性を念頭に、実現性の高い整備計画を立案する必要がある。
- 事業の採算性の視点から見れば、土日祝日だけではなく、平日の施設稼働率を向上させることが必要である。
- 利用者の満足度や利用促進を向上させるためには、各施設を整備すると同時に、瑞穂市側に駐車場、トイレ、管理棟の整備が必要である。
- 社会実験では、無料を前提に考えるのではなく、有料コンテンツ（料金を支払ってでも行ってみたいような魅力的なもの）の提供も考える必要がある。
- （仮称）犀川ふれあい橋が整備されれば、利便性が向上し、活性化に寄与すると考えられるが、費用対効果が気になる部分である。

5 まとめ

利用者アンケート調査では、東屋やベンチといった休憩施設の整備とともに、散策、水遊び施設、バーベキュー場、マルシェなど交流やにぎわいを生む施設の整備に対する要望が多く、加えて防災・安全性・利便性の向上から犀川を渡る橋の要望も見られた。

また、民間団体の市場可能性調査では、運営組織やイベント開催など多様な項目に対し、多くの団体と参画・連携の可能性のある結果となった。要望事項としては、市との対話による意見交換が挙げられ、市と民間団体の間で、信頼関係を築くことが重要である結果となった。個別ヒアリングでは、事業の継続性に対する意見やトイレなどの施設整備に対する意見があった。

本年度の調査結果を踏まえ、令和5年度には社会実験の開催、関係機関を構成員とする「（仮称）犀川・五六川周辺かわまちづくり検討委員会」を設立し、持続性を持ったかわまちづくり計画となるよう事業内容を検討する必要がある。

